



土坑の復元模型



槻沢遺跡



深鉢形土器

寒い冬は、あったか〜い室内で 重要文化財鑑賞！

本市の重要文化財と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか。「旧青木家那須別邸」や「那須疏水旧取水施設」といった、明治期の開拓に関連する文化財でしょうか。しかし、今から4,000年以上も前の古代の歴史を今に伝える、重要文化財があることを知っていますか。今回は槻沢遺跡の「深鉢形土器」を紹介します。

私のまちの 近い 世界遺産

Topic

槻沢遺跡あれこれ

これまでの調査結果で分かっている遺跡の範囲は東西600m、南北300mにも及びます。また、竪穴住居跡140軒以上、土坑300基以上が見つかっています。他にも、東北南部や北陸地方に分布する複式炉なども見つかり、土器の他にも、他地域との交流を確認することができます。槻沢遺跡の発掘調査は、その一部しか行われておらず、まだまだ、皆さんの足元には古代の歴史が眠っている可能性が…ドキ土器しますね。

この槻沢遺跡の深鉢形土器は、那須野が原博物館で見ることができます。寒い日は暖かい博物館で、古代の歴史に触れてみませんか。

この30個の土器は、ほぼ同時代に穴に投げ込まれており、関東・東北地方の特徴を有しているものや、北陸地方の影響を受けたものなどが混在しています。縄文中期の北関東における関東地域と東北地方の交流を示す大変貴重な資料であることから、30個体一括で国の重要文化財に指定されました。

槻沢遺跡（市指定史跡）は縄文時代中〜後期（約4千年前）の栃木県を代表する大規模な集落遺跡です。これまで、5回の発掘調査が行われましたが、その過程で多くの袋状土坑（食料貯蔵用の穴）が見つかり、その一つから、30個の土器がまとまって出土しました。

目指せ！「日本遺産」

日本遺産 (Japan Heritage) とは、文化財を始めとした地域の歴史的魅力や特色を地域活性化に活用しようという文化庁の事業です。点在する文化財を「ストーリー」として結びつけブランド化を図るもので、文化庁では、2020年までに100件の認定を掲げています。現在、大田原市・那須町・矢板市の3市町とともに明治期の開拓を軸としたストーリーを作成し、日本遺産認定を目指しています。詳しくは [日本遺産](#) [検索](#)

お知らせ